学校番号	３０２９

令和８年度　家庭科

教科	家庭	科目	家庭基礎	単位数	２単位	年次	２年次
使用教科書	「ウェルビーイングにつなぐ　家庭基礎」　（教育図書）						
副教材等	「生活学 Navi」（実教出版）						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

授業では、やってみる事、常に自分なりの考えを持つ事を大切にしましょう。
・他者との会話を通じ、会話力、傾聴力、おり合う力などを身に付ける。
・グループワークに積極的に参加し、価値観や視野を広げる。
・実習で基礎縫いや調理の技術を身に付け、生活で実践する。（自宅にて実践してみる）
・実験・体験を通して、感じたり、考えたりしたことを言葉で表現する。

2　学習の到達目標

【知識及び技能】
人間の生活の営みを総合的に捉え、生活を主体的に営むために必要な知識と技能を習得する。
【思考力、判断力、表現力等】
実習・実験・体験を通じて、社会の問題や自分の生活の課題に気づき、解決策を構築し、実践し、評価・改善を行い、考察したことを論理的に表現する力を養う。
【学びに向かう力・人間性等】
様々な人々と協働し、社会に参画しようとするとともに、生活を主体的に創造しようとする実践的な態度を養う。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活などに関する基礎的・基本的な知識を身につけている。 実習・実験・体験により必要な技能を身に付け、実践できる。	各分野で主体的に考えることができ、社会の問題や自分の生活の課題に気づき、解決策を構築し、実践し、評価・改善を行い、考察したことを論理的に表現することができる。	グループワークなどで他者と意見を共有し、時には折り合って意見をまとめる力をつける。 主体的に深く考察し、他者へ伝える工夫をしようとしている。 実習・実験・体験において実践的な態度で積極的に学ぼうとしている。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
前期中間考査まで	青年期の自立と家族・家庭	○青年期の生き方について考える ・自己を知る ・大人とは？ ＊グループワーク ・自立とは？ ＊グループワーク ・将来に向け今できること	a:青年期の発達課題と生涯発達について理解し、自分なりの自立について考えられる。 b: 自立や大人に必要な条件などを考え、他者と意見を共有し深く考察し、その内容を発表できる。 c: 各ライフステージの特徴・課題について、関心を持ち、グループワークにも積極的に参加している。また、自分の意見をしっかりと書ける。	定期考査	グループワーク 発表	ワークシート 振り返りシート
		○デートDV ○労働について考える ・性別役割分業 ＊グループワーク ○家族について ・結婚 ・家族と法律	a: 固定的な性別役割分業意識を見直し、男女共同参画社会の実現、ワークライフバランスについて検討する技術を身につけている。 デートDV、家事労働、職業労働の特徴と性別役割分業意識との関連などを理解し法律についても知識を身につけている。 b: 社会的な課題がなぜ起こっているかを考え、解決を目指した考察を表現できている c: 自分に起こりえるライフイベントとして主体的に捉え学習する態度がある。	定期考査	グループワーク 発表	振り返りシート

前期期末考査まで	食生活と健康	★この単元は1年間にわたって学習する ○私たちの食生活 ・高校生の食生活 ・和食について ○調理の基本 ・食生活の安全と衛生 ・調理の基礎 **＊調理実習3回（5月～2月）** ＊実験 ○栄養と栄養素 ＊グループワーク	a: 生涯を通じて健康で安全な食生活を営むことができる知識を身につけている。5 大栄養素の働き、多く含む食品について理解できている 基本的な調理技術を学び、健康で安全かつ環境に配慮した日常食をつくる技術を身につけている。 b: 青年期の食事の重要性、食事摂取量、栄養素の役割を理解し、発表して伝えることができる。 c: 食事と栄養・食品、これからの食生活に関心を持ち、意欲的に学習に取り組もうとしている。	定期考査 実習	ワーク シート 発表	振り返り シート 相互評価 自己評価
		○ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動 ＊家族に食事をつくる	a: ホームプロジェクトや学校」家庭クラブの実践にあたり、。 b: 生活上の課題を見出し、その解決を目指して科学的に探求し、表現している。 c: ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動について感心を持ち、主体的に学習に取り組もうとしている。	課題提出	課題提出 発表	課題提出 発表
後期中間考査まで	子どもの生活と保育	○子どもの誕生 ・胎児の発育と母体 ＊妊婦体験 ○子どもの発達 ・子どもの心身の発達 ・子どもの生活 ＊赤ちゃん人形抱っこ・遊び・おむつ実験 ○子どもとのかかわり方 ＊体験実習用名札づくり ＊幼稚園体験実習 ○親になることを考えよう ＊ワークショップ	a: 子どもへの関わり方を理解し関わる技術が身についている。 子どもの発達・保育について理解し、家族・地域・社会の果たす役割を認識するために必要な知識を身につけている。 b: 保育者とのかかわり、周りの人とのかかわりが重要であることが理解でき、実習で実践できている。 c: 子どもの発達、保育について関心を持ち、意欲的に行動できている。	定期考査	自己評価 作品 発表	実習態度 実習レポート 振り返りシート

	消費生活と経済計画	○社会と家計の変化 ○長期的な経済計画を立てる ＊ライフサイクルゲーム ＊ライフプランを立てる ○契約と主体的な消費行動 ・さまざまな契約 ・問題商法への対処法 ＊ロールプレイング	a: 消費生活と生活設計を立案するための技術を身に付けている。 18歳成人としての契約について理解し、自立した経済活動に必要な知識を身に付けている。 b: 消費生活と生涯を見通した経済計画・管理、生活設計について考え、工夫している。多様化する販売方法と問題商法への対処法を考えることができる。 c: 立てたライフプランについて多面的に考え、必要なお金について積極的に学ぼうとしている。また、18歳に成人になり、責任ある消費者として持続可能な消費生活・環境について考察を深めようとしている。	定期考査	ライフプラン	ゲーム 振り返りシート
後期期末考査まで	衣生活と健康	○衣服の機能 ○衣服素材の種類と特徴 ○衣生活の計画 ・衣服の購入 ・衣服の管理 ＊洗濯をしてみよう この実習は5月に行う ・持続可能な衣生活 ○被服実習 ＊基礎縫いで作品制作	a: 衣服の着装、管理などについての技術を身につけている。 衣服の素材や衣服の管理な科学的に理解し、衣生活を主体的に営む知識が身についている。 b: 上記の知識を得た上で、環境にまで配慮し、衣服計画を考えることが出来きる。 c: 衣服を着用する意味や快適な衣生活について自分の衣服の購入や管理を評価し、改善しようとしている。	定期考査 実習作品	実験 洗濯の課題	振り返りシート

※ 表中の観点について a:知識・技能 b:思考・判断・表現 c:主体的に学習に取り組む態度
※ 表中の＊は実習・実験・体験・ワークを意味する